

# 平成25年度第10回定例会

## 八王子市教育委員会会議録

日	時	平成25年9月11日(水)	午前9時
場	所	八王子市役所 7階	702会議室

# 第10回定例会議事日程

1 日 時 平成25年9月11日（水）午前9時

2 場 所 八王子市役所 7階 702会議室

3 会議に付すべき事件

第30号議案 八王子市立学校教職員の処置の内申について

4 協議事項

- ・八王子生涯学習プランの策定について
- ・第三次読書のまち八王子推進計画の策定について

5 報告事項

- ・パワーアップ研修の報告について (指導課)
- ・平成25年度全国学力・学習状況調査の結果等について (指導課)
- ・中核市先行自治体（高崎市）視察報告について (指導課)
- ・夏季に開催された行事等の実施結果について（口頭）

(生涯学習スポーツ部・図書館部)

その他報告

八王子市教育委員会

出席委員（5名）

委員長	（1番）	小田原 榮
委員	（2番）	和田 孝
委員	（3番）	川上 剋美
委員	（4番）	金山 滋美
教育長	（5番）	坂倉 仁

教育委員会事務局

教育長（再掲）	坂倉 仁
学校教育部長	野村 みゆき
学校教育部指導担当部長	相原 雄三
教育総務課長	小林 順一
学校教育政策課長	平塚 裕之
施設管理課長	岡 功英
保健給食課長	森田 聖二
教育支援課長	穴井 由美子
指導課長	細井 東
教職員課長	廣瀬 和宏
統括指導主事	山下 久也
統括指導主事	山本 武
指導課前任指導主事	菅野 直博
生涯学習スポーツ部長	天野 克己
生涯学習政策課長	宮木 高一
スポーツ振興課長	立川 寛之
スポーツ施設管理課長	橋本 徹
学習支援課長	新井 雅人
文化財課長	田島 巨樹
こども科学館長	牛山 清志
国体推進室長	富貴澤 繁幸

国体推進室主幹	岩田 充
国体推進室主幹	高橋 利光
図書館部長兼中央図書館長	豊田 学
生涯学習センター図書館長	中村 照雄
南大沢図書館長	村田 浩三
川口図書館長	福島 義文
指導課指導主事	野村 洋介
教育総務課主査	堀川 悟
生涯学習政策課主査	串田 欣司
生涯学習政策課主査	鶴田 徳昭
文化財課主査	木住野 直彦
中央図書館主査	市原 重人

事務局職員出席者

教育総務課主査	遠藤 徹也
教育総務課主任	川村 直

【午前9時00分開会】

○小田原委員長

定刻になりましたが、始める前に、皆さん、スポーツ祭東京2013の準備で、大変忙しい時期だと思いますが、それにあわせて東京オリンピック・パラリンピックの招致についても、御尽力いただいたところですが、非常にいい結果が出ましたのでお互いに喜び合いたいと思います。いろいろな考え方をする方たちもいますが、私たちとしては非常に喜ばしいことだと思っております。また、忙しくなりますけれども、皆様のお力を、尽くしていただきたいと思っております。

それでは、お待たせいたしました。

本日の委員の出席は5名全員でございますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成25年度第10回定例会を開会いたします。

夏季の省エネルギー対策として、いつものとおりの軽装と節電をいたしておりますので、御理解のほど、お願いいたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、2番、和田孝委員を指名いたしますので、よろしくお願います。

なお、議事日程中、第30号議案は、審議内容が個人情報に及ぶため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第6項及び第7項の規定により、非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

---

○小田原委員長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

まず、協議事項となります。

「八王子生涯学習プランの策定について」及び「第三次読書のまち八王子推進計画の策定について」は、相互に関連いたしますので、一括議題に供します。

本件につきまして、生涯学習政策課及び図書館部から御説明願います。

○宮木生涯学習政策課長 それでは、本日の協議事項、八王子生涯学習プランの策定について、担当の鶴田主査から御説明いたします。

○鶴田生涯学習政策課主査　それでは御説明いたします。

お手元の協議資料「生涯学習プランの策定について」をお開きください。

まず、1、策定目的についてですが、平成25年3月に策定された「八王子ビジョン2022」の施策「学びを生かせる生涯学習の推進」を実行するため、平成27年度から31年度を計画期間とする現在の生涯学習プランの成果と課題を整理し、次期生涯学習プランを策定するものです。

続きまして、2、策定スケジュール等を御覧ください。

(1) 計画の期間及び位置づけについてですが、計画期間は平成27年から31年度の5カ年となります。位置づけは、基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」を上位計画とし、計画の策定に当たっては、この上位計画及び教育振興基本計画「ゆめおり教育プラン」、読書のまち八王子推進計画、スポーツ推進計画などの関連計画との整合性を十分に図るものといたします。

続きまして、(2) スケジュールについてですが、平成25年9月27日に本日の協議を踏まえた内容にて、都市経営戦略会議に八王子生涯学習プランの策定を付議いたします。その後、同年10月の教育委員会定例会に、本日の協議を踏まえた内容にて生涯学習審議会への諮問を議案として提出し、以降、生涯学習審議会にて討議、答申作成を進めます。平成26年度は、この答申を踏まえ、素案の作成に着手し、教育委員会定例会及び都市経営戦略会議への付議、パブリックコメントの実施そして市議会への報告を経て、平成27年3月の計画策定を予定しております。

次に資料の3、協議事項をご覧ください。

(1) 次期生涯学習プラン策定に向けた課題の設定と、これを踏まえた(2) 生涯学習審議会への諮問文案についてです。事務局案の整理課題として、①市民協働、市民主体の生涯学習の一層の推進、②生涯全体にわたる自ら学ぶ力の養成、③学びの成果を生かす制度づくりの3点につきまして整理いたしました。諮問の理由につきましては、別紙、諮問文案のとおりとなります。

課題につきましては、図書館のさらなる活用、生涯学習施設の今後の運営、生涯学習情報の収集と提供の強化などを課題として検討いたしましたが、これらにつきましては、読書のまち八王子推進計画の策定が同時に進行していること、今回整理した課題の中において議論が可能なこと、審議会委員の意見を図るに際し包括的なテーマが望ましいこと、国の動向と連動した討議が望まれることから、以上の3点の課題を事務局は選択い

たしました。

以上を踏まえまして、事務局案として設定したこの課題と、それを踏まえた審議会への諮問文案につきまして、意見をいただきたいと思えます。

生涯学習プランの策定についての説明は以上でございます。

○小田原委員長 続けて図書館から説明願います。

○村田南大沢図書館長 それでは、「第三次読書のまち八王子推進計画の策定について」を御説明いたします。お手元の資料を御覧ください。

まず、1の策定目的です。読書活動は生涯学習になくなくてはならない活動であり、すべての市民が自ら学び、自ら生きる力をつけ、誰もが知的で豊かな生活を営むためには不可欠なものと考えます。このことから、現計画の成果と課題を整理し、平成27年度から5年間の計画を策定することにより、さらなる「読書のまち八王子」を推進するために、第三次の読書のまち八王子推進計画を策定することとしたものです。

次に、2の策定スケジュール等ですが、計画期間は平成27年度から31年度までの5年間とします。次に位置づけですが、市の基本計画である八王子ビジョン2022を基本とし、教育振興基本計画や生涯学習プラン等と整合を図りつつ、かつ図書館法等の関連法令に基づく基準などを参考として策定してまいります。

次に、資料裏面をご覧ください。策定のスケジュールですが、生涯学習プランと同じスケジュールとなります。本定例会後に市の都市経営戦略会議に付議した後に、策定準備に入り、生涯学習審議会からの生涯学習プランの答申を受け、庁内関連所管及び読書のまち八王子推進連絡会議において計画の策定を進めてまいります。平成26年11月には素案を作成し、教育委員会定例会及び都市経営戦略会議に付議し、その後、パブリックコメントを行い、平成27年2月には原案を確定したいと考えております。

次に、3の協議事項ですが、まず、(1)課題として、一つ目は市民が身近な場所で気軽に図書館の利用ができるよう、より一層の利用の拡大を図ること。二つ目は豊かな市民生活を送る上で、小さいころからの読書が重要な役割を担っていることから、学校図書館の環境整備も更なる充実の活用が必要と考えています。三つ目に、市民が自ら問題解決するための図書館資料の提供や、情報発信の強化。四つ目に電子図書やインターネットの利用が急速に広がる中で、ICTを活用した図書館ネットワークの充実を図ることなどを今後の課題と考えており、これらを解決するために計画の策定が必要と考えております。

次に、(2)めざす姿として、読書に親しめる環境の整備、充実を図ることにより、市民一人ひとりが読書活動にいそしみ、自ら学ぶ姿勢が形成されることにより、元気で活力ある市民生活を送れ、その知識を地域に生かし、市民同士がつながっていけるような社会になることをめざします。

最後に参考として、(1)読書のまち八王子推進計画の経緯ですが、平成15年3月に「八王子市子ども読書活動推進計画」が策定され、その後平成16年3月に「生涯読書活動推進計画」が作成されました。この二つの計画を合わせ「読書のまち八王子推進計画」の第一次計画としたところです。そして、平成22年に、平成26年度までの5カ年計画としての第二次計画が策定され、現在、この計画に基づき事業を実施しております。

次に、(2)第二次計画の平成24年までの実績の中で、新規に開始した事業を、幾つか挙げます。

まず、市民の身近な場所での図書館の利用拡大を図る観点から、平成22年に市内17カ所目となる由井市民センターみなみ野分館地区図書室が開設されました。また、図書館システムが平成23年に更新されたことにより、利用者が必要な情報を検索しやすくなった為、図書館ホームページへのアクセス数やリクエスト件数が増加しました。あわせて図書館ホームページを全面リニューアルしたことにより、大学図書館ホームページへのリンクに加え子どものページや図書館活動通信のページを設けるなど、利用者への積極的な図書館関連の情報提供を行っております。

次に、学校での読書活動支援として、学校図書館蔵書のデータベース化を行うとともに、学校図書館サポーターや読書推進担当の学校への派遣を開始しました。さらに、図書館ホームページ内に学校貸出図書の検索、予約等の機能を持つ学校専用ホームページを開設するとともに、図書館に学校図書館専属の嘱託員を配置し、先生方からの相談や学校への図書配送を開始するなど小中学校の読書活動推進に積極的に取り組んでいるところです。

説明は以上です。

○小田原委員長 担当からの説明は終わりました。

本件について、御質疑、御意見はございませんか。

協議事項として、二つの計画が出ましたが、図書館の計画はどこかに諮問しないのでしょうか。

- 宮木生涯学習政策課長 生涯学習審議会が図書館協議会の機能を持っておりますので、生涯学習プランのほうで諮問し、その答申を受けて、読書のまち八王子推進計画も策定をしていく方向で考えております。
- 小田原委員長 第三次計画を策定するにあたっての課題と協議事項を、生涯学習審議会にかけるために、「こういうことを考えてほしい」ということについて御意見をいただきたいということですね。
- 宮木生涯学習政策課長 今回、お示しした協議事項の資料の中に、生涯学習審議会の諮問事項というのがあります。これは次回の定例会で、議案として上程させていただきます。この中で、生涯学習活動を推進していくためには、図書館の果たす役割は非常に大きなものがありますので、当然、答申の中には読書推進についても触れていただくことになると思います。
- 小田原委員長 それでは、各委員から、御質疑、御意見、ございましたらどうぞ。
- 金山委員 基本的なことを伺ってよろしいでしょうか。  
スケジュールを見ると10月に諮問、5月に答申ということなので、正味半年しかないと思うのですが、これで十分な討議がなされるのでしょうか。
- 宮木生涯学習政策課長 確かにスケジュール的にはかなりきついのですけれども、その辺はあらかじめ会議資料を委員さんに配布して、事前に各委員さんから御意見をいただき、それをまとめてお示しする形で、会議を工夫し乗り切ろうと考えております。
- 金山委員 私も出席した経験があります。月一回のペースだったら一年でも足りない実感がありますが、今後何年かにわたっての基本的な方針を示すものになりますので、委員の方々には申しわけないのですが、必要であれば臨時に会議の回数を増やしていただくなど、議論を尽くした上での答申としていただけたらと思います。よろしく願いいたします。
- 小田原委員長 その他、ございませんか。
- 和田委員 まず、生涯学習プランの策定の諮問内容のところ、最終的に求めているものの確認をさせてください。3項目挙がっていますが、それぞれ「基本方策」「活用策」「支援のあり方」というのを求めているわけですが、具体的に、求めているものがどのレベルなのかをお教えてください。  
それから、読書のまち八王子推進計画の中で、「市民一人ひとりが積極的に読書活動にいそしみ」という例がありますが、「いそしんでいるかどうか」というのは、どのよ

うな把握の仕方をしているのでしょうか。図書館の活用状況を踏まえて、それを「読書をしている」「していない」という評価になるのか、その辺の読書を推進する上での評価基準といたしますか、どのような市民の読書活動を把握する手だてを持っていらっしゃるのか、以上2点について説明願います。

○宮木生涯学習政策課長　まず、諮問内容の（１）番目、「市民協働、市民主体の生涯学習の一層の推進」ということは、これが一番基本の部分だと思いますので、具体的な施策までは求めておりません。あくまで、この方針の部分です。

次に、「自ら学ぶ力の養成について」は、具体的には小中学校や学校教育において、こういう力を植えつけていただきたいと思いますと思っておりまして、その中では図書館の活用というのは、ひとつ重要な部分になると考えており、活用策という形を取らせていただきました。

次の「学びの成果を生かす制度の構築について」ですが、これは前のプランの中でも、仕組みづくりという形でありましたが、5年間の中では、仕組みとまで言えるものが、なかなかできていなかったもので、できればもう少し踏み込んで幾つかの提案等もいただけたらと思って載せました。

以上です。

○村田南大沢図書館長　市民一人ひとりが読書に親しむということで、どんな評価をしているのかということですが、毎年、市内4カ所の図書館で、12月に利用者の実態調査を行っており、そういう中で状況を把握しております。

○和田委員　図書館の利用状況なのですが、実態調査においてどのような把握をされているのですか。どの程度図書館を利用しているかどうかという質問なのか、それとも、読書活動をどれだけ行っているのかという質問なのですか。

○中村生涯学習センター図書館長　毎年12月に、満足度調査を実施しています。その中で、例えば図書館の本の借り方や貸出期間、どのような形で読まれているか、リクエストの数が足りるかという形で、来館された方に調査する形で聞いております。

○小田原委員長　そういうことを聞いているわけではありません。

○豊田図書館部長　最終的には世論調査の様なものを、本来的に考えなくてはいけないという気持ちもあるのですが、今後、世論調査等を踏まえて、「一人ひとりが積極的に」という部分は、どのようになっているのかは調べていきたいと考えています。

○和田委員　図書館の利用のところなのですが、目指す姿が、「いそしみ」「元気で活力あ

る生活を送れ」というかなり抽象的な概念で説明されています。これを実態として、成果が上がったという把握の仕方が、今、御説明いただいたように何らかの形で評価をしていかないと、この取り組みの成果があったかは、掴みづらいただろうと思ったので質問させていただきました。

計画を立てて実施した以上は、その成果について、どういう把握の仕方をするかも含めて審議会の委員の方々に御意見をいただきたいというのがあります。

それから、諮問内容については、今の御説明を伺って、それぞれの項目について、この諮問の内容のレベルが違うことは、よくわかってきましたし、経緯もあって項目を挙げているのだらうと思っていますが、諮問内容のところで、小中学校や学校教育との関連を図っていることについて、この文面で、全てが言い尽くされている、もしくは、触れてほしい内容になっているのかと言うのは、この文面からは読み取れませんし、あと、学校教育で図書館を使う場合には、「利活用」という言い方をしているのですね。「活用」ではなく、利用と活用をあわせた「利活用」という表現を使っているのですが、学校教育との関連を図るのであれば、そのような用語にしていかないと、関連の部分では、表現が不十分ではないかという気がするのです。

○宮木生涯学習政策課長　未就学児からという形の中で、未就学というのは幼稚園・保育園なども含むのですけれども、この部分に小中学校も含んでいると考えているのですが、もう少しわかりやすい表現に、改めていきたいと思います。

○小田原委員長　今、和田委員が話したのは、図書館のほうを言ったわけですか。

○和田委員　生涯学習の最後の、図書館に触れているところなのですが。

○宮木生涯学習政策課長　実は、国の第二期教育振興基本計画の中で、社会を生き抜く力の養成の1番目のミッションの中に「生きる力の確実な育成」ということで、幼稚園から高校までとなっているのです。その部分を意識して、作成したのですが、もう少しこれに近い形にしたいと思っています。

○小田原委員長　3 諮問内容の(2)自ら学ぶ力の養成についての文で「普及・振興について、また図書館などの教育施設の活用策」とありますが「について」とあって、活用策と続く文の切り方がよくわからない。

○宮木生涯学習政策課長　一旦「普及・振興について」で文節が切れ、次は「また、図書館など教育施設の活用策」についてという文で、二通りになります。実は、図書館の部分を、本当は別項目にしてもいいのですけれども、無理に一つの文としたところがござい

まして、結果少し付け足したような文面となってしまいました。

○小田原委員長　　どうも曖昧で、中途半端な気がするのです。受け取るほうが、どう受け取るか。

○宮木生涯学習政策課長　　それでは、仮に、ですけれども、「また、図書館など教育施設の活用策を含めた生涯学習活動の普及・振興について」というような形でしらいかがでしょうか。

○小田原委員長　　それなら、よろしいのではないですか。

○坂倉教育長　　それだと狭くなってしまいませんか。今現実に使っているのは60代以上で、はたしてそれでいいのかというところから、今度の諮問の中では、全世代を対象としているのであれば、「活用策を含めた」と、頭につけてしまったら意味が狭くなってしまおうと思います。

○宮木生涯学習政策課長　　それでは、諮問の内容を三つに限る必要はないので、例えば全体を踏まえて「図書館など教育施設の活用策について」という形にしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○小田原委員長　　皆さん、いかがですか。

○金山委員　　図書館のほうですけれども、課題が四つ上がっていて、ICT等の課題も書いてありますが、情報という形がすごく変わってきています。以前の計画を策定をした時と比べて情報の形は格段に変わっていますので、本という枠にとらわれずもう少し広い形でそれに対応することを課題として挙げる必要はないのだろうかと思いました。

もう一つは、図書館を利用する目的は、リラックスするための読書や専門的な調べもの、また自分のキャリアアップのためなど、人によって千差万別です。それにどのように対応するのかといった図書館の役割をどう捉えるのかということも、必要ではないのだろうかと思いました。

それから、生涯学習も図書館も、生涯学習をすることが目的ではないですし、図書館に行って本を読むことが目的ではないので、どのように自己実現していただくか、また自分に返ってくるものを得てもらおうかということが、一番肝心なことなので、それらも踏まえて、市民の生活のため、人生の充実のためということをどこかに入れることが必要なのではないかと思いました。

それから、図書館に関して、読書というのは言語活動や言語能力を高めるという意味合いの言葉が、どこかに一つ欲しいと思いました。子どもだけでなく、今、大人も能力

が落ちていますので。

○村田南大沢図書館長 おっしゃるとおり、情報の形が変わってきている中で、本、映像、音声、いろいろなものを含めて図書館資料という形で考えておりますし、その辺は配慮した計画にしていきたいと思っております。

また、金山委員がおっしゃるとおり、私たちが本を読んでもらうということが目的ではなくて、市民一人ひとりが豊かな生活を送る、自己実現をするということが、目的だと思っておりますので、「めざす姿」の中でも、少し触れておりますけれども、そういうことも配慮したプランにしていきたいと思っております。

それから言語能力を高めるため、特に小さいころからの読書によって、文章を分析、把握をする力を養うことも必要だろうと思っておりますので、学校図書館の整備を図り、それを支援していく中で、より一層言語能力を高めていくための施策についても、計画に入れていきたいと思っております。

○坂倉教育長 そうだとしたら「めざす姿」の文章の構成が、やはり逆です。環境の整備が進むことによって良くなるのではなく、それを逆にしないと、現に利用している方々にどうするかというところにとらわれている書き方になります。

生涯学習審議会からどのくらい厳しい答申をいただけるかわかりませんが、皆さんが思っているのと180度変わるかもしれません。その辺の意識を持って考えていただきたいと思うのです。

○小田原委員長 市民一人ひとりが積極的に読書活動等にいそしんで、その結果、文章の後半部分のようになっていくということ、これがめざす姿なのでしょうけれども、文面は、この後半の部分をするために、何々をするという形のほうが、ここはいいと思っております。

そうすることで、意味が狭くなってしまいますが、そうしないと理解というか、具体的な方策が出てこない感じがします。

生涯学習プランの諮問内容についても「八王子市の生涯学習振興の基本方策について」ではなく、「生涯学習の推進について」として「行政が主導的な事業体制が指摘されており、これらを踏まえ、進める」という言い方をすると、1、2、3の順番どおりに内容が揃っていくと思っておりますので、検討していただきたいと思っております。

○宮木生涯学習政策課長 委員長のおっしゃるとおり、1番目の部分は、生涯学習審議会の事業評価の意見の中でも、再三言われていることなので、その辺の文言も加えるようにいたします。

○小田原委員長　それと、もう一つ。図書館の計画の策定目的のところ。これも、よくわからないのです。まず、「読書活動は生涯学習になくてはならない活動」であると言っているのだけれども。この「なくってはならない活動」という部分。

例えば一年間で何冊本を読みましたかと聞いたときに、0冊の人がいるでしょう。大学の先生の話によると、学生でも、0冊というのが結構いるということですが、それでも学生生活を過ごしているわけですから「なくってはならない活動」ではないんですよ。

では、「なくってはならない活動」というのを、どのように表すかということが一つと、もう一つは4行目の「そのため、～を実施するために」という文章だと「そのため」が何なのかよくわからなくなっているのです、ここのところも文面を考えていただきたい。

他に何かありませんか。

そうすると、次回、案として提出されるということで、よろしいですか。

○宮木生涯学習政策課長　今回は、生涯学習審議会への諮問という形で議案として提出します。

○小田原委員長　ということですが、よろしいでしょうか。

川上委員、何かございませんか。

○川上委員　生涯学習ということは、とても広くて大きいことで、それぞれの御担当で一生懸命お考えになったことだと思うのです。こうして言葉にしなければいけないということは、非常に難しいです。思いを言葉だけで表現したり、行動だけで表現したり、表情だけで表現するということは、それは不可能に近いことで、どのように書き著しても100%というわけにはいかないのではないかと思います。

視点を少し変えて、もう一度お読みになると、多くのことがよくわかるのではないかと思います。今のように、「なくってはならない活動であり」というところは、もちろん、それは理想でありますけれども、やはり、そうでなくても生涯学習はできるということも、いつも心の隅に置いていただければ、もっと深い意味、広い意味での皆様に訴えるものが書き著せるのではないかと、思います。

○小田原委員長　さっき宮木課長がお話しした、未就学児から、若い人たちが使うという点では高校生までも、生涯学習の中に捉えていくということが、きちんと明文化されてきたところが、いいと思います。

○川上委員　定例会で、ブックスタートに関する報告を何年か前にされていましたが、未就学児からというところはそのとき既に、一端を行っていたということではなかったの

しょうか。もう八王子は、先に行っているという自負を持っていただきたい。

それから、学びということは、生まれたその瞬間に母親の笑顔を見て、子どもは笑顔を学ぶとされています。そして、人生最後のその瞬間までが人間の学びだと思っています。

そのことも全部考えて、もっともっと深いものをつくろうという八王子の立場を、明確にお持ちいただきたいと思っています。

○小田原委員長 説明の中では、八王子は既にやっているということを書いてほしいということですね。

「ここまで」と止まるのではなく「最後まで」。そういう姿というか、あり方みたいなものを想定しているのだということは、説明の中でも書いていただければと思います。

その他、いかがですか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、次回、諮問をするに当たっての議案が提出されるということですので、気がついたところがありましたら、そこでまた御指摘いただきたいと思います。

それでは、協議事項は以上ということで、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 それでは、協議事項は以上で終わりいたします。

---

○小田原委員長 次に、報告事項となります。

指導課から3件、御報告願います。

まず「パワーアップ研修の報告について」を、お願いいたします。

○山本統括指導主事 それでは、平成25年度に実施をしてきましたパワーアップ研修について御報告させていただきます。夏季休業中に実施した教員研修でございます。

○野村指導課指導主事 それでは、御説明いたします。

初めに、パワーアップ研修の目的についてですが、パワーアップ研修は、夏季休業期間中に、教員の資質・能力の向上のための研修の機会を設け、教員の職務の中心となる授業力を高め、日常の職務に生かすことを目的としています。

2番の実施方法です。講座を企画、立案、運営する主体は、各小中学校と指導課の二つあります。各小中学校では、学校企画提案研修を行います。指導課では、教科専門研修、教育課題研修、施策推進課題研修を行います。

(2) 講座内容につきましては、①から④に記載されておりますので、御覧ください。

(3) 受講対象者は、市内小中学校の教員で、提示された講座から2単位以上選択し、受講します。1単位につきましては半日で、2時間以上としております。

それでは、3番の実施内容について、御説明させていただきます。

初めに、各小中学校が運営主体となる、(1) 学校企画提案研修についてです。学校企画提案研修を実施した学校数と講座数は、平成24年度が95校で137講座、平成25年度が95校で133講座となっております。学校企画提案研修の内容としましては、教科、指導法については54講座と最も多く、領域16講座、特別支援教育25講座、教育課題23講座、小中一貫教育10講座、ICT活用5講座となっております。詳しい内容につきましては、別紙1、平成25年度パワーアップ研修学校企画提案研修一覧を御覧ください。

次に、(2) 指導課企画研修について、御説明させていただきます。指導課企画研修の講座数と参加者数についてですが、平成24年度は36講座で、参加者数は846人、平成25年度は39講座で984名でございます。今年度の施策推進課題研修はまだ終了しておりませんので、この参加者数には、施策推進課題研修は含まれておりません。

内容としましては、教科指導法の研修が15講座、領域が3講座、特別支援教育が6講座、教育課題が13講座、ICT活用の研修を2講座実施いたしました。詳しい内容につきましては、別紙2、平成25年度パワーアップ研修指導課企画研修一覧をご覧ください。

最後に、今後の方向性について、御説明させていただきます。指導課企画研修で、平成24年度と大きく変更した点といたしまして、教員の授業力の向上を図るために、各教科における言語活動の充実に資する授業改善をテーマに各教科の指導方法に関する講座を設けました。学力調査の結果を踏まえた授業改善や若手教員の授業力の向上などの課題を克服するために、平成26年度パワーアップ研修における指導課企画研修では、各教科の講座数を増やし、教師の指導力を向上させるよう、さらに研修内容を充実させてまいりたいと思っております。

私からの説明は、以上です。

○小田原委員長 指導課からの説明は終わりました。

本件につきまして、御質疑、御意見、ございましたらどうぞ。

指導課企画研修については、講座数の他に参加者数が示されているのですが、これは

延べ人数ですか。実質、教員の何人が参加したという数字ではないのでしょうか。

それと、学校企画研修のほうでは、参加者の実数はどうなのか記載がありませんが、これはどうなのですか。

○山本統括指導主事 指導課企画の研修の参加者数につきましては、各講座の参加者数を合計したものになります。ですから、2講座とった方につきましては、2カウントになっています。

また、学校企画の研修につきましては、ただいま集計をしているところでございます。ちなみに、昨年度は、学校企画の研修につきましては、4, 282人という数字が出ています。

○小田原委員長 何かございましたら、どうぞ。

○金山委員 まず一つは、昨年度が4, 282ということは、単純計算をすると2で割った数が延べ人数ということでしょうか。

○野村指導課指導主事 原則、1人2単位ということになっておりますので、単純に言うとそういうことになります。

○金山委員 これだけ講座があるのに、御自分の学校で開催される講座に出るのが主になると思いますが、課されるのは2単位だけなのでしょうか。例えば勉強したい方は、もっとたくさん講座を受ける方も、いらっしゃると思うのですが、その辺がどのように皆さん、勉強なさっているのかということと、家庭教育に関する研修、家庭支援の保護者に関する研修がもう少しあってもいいのではという気がしました。それから、実施校数は95校、実施していない学校は、なぜできないのかと思いましたが、伺いたいと思います。

○山本統括指導主事 まず、先生方の参加につきましては、2講座を受講していただくというのは最低ラインで、それ以上に参加していただくことは可能になっています。

また、東京都が実施している研修履歴というものがございまして、そちらに掲載する手続はとっておりますので、どの先生が何の講座を受講したかは、わかるようになっています。

家庭支援などの研修内容についてですが、パワーアップ研修についてはアンケート調査を実施しておりますので、その評価を鑑みながら、今後の研修内容について検討をしていきたいと思っています。

学校企画の研修について、実施をしていない学校もありますが、小規模校で参加の状

況が少ない、もしくは日程的に厳しいということや、それから自校だけではなく、いろいろなところに行って勉強してきてほしいという意思で、2講座を学校で開くところもありますし、1講座だけ開講するという学校もありますので、それが、ここの数字ではないかと思っています。

○小田原委員長　中核市への移行が進んでいる中で、今後研修が中心になってくると思うので、そのことを考えると、もっときちんと報告していただきたい。今回の報告は実数が、金山委員の質問の回答になっていないわけです。集計中ということですが、一日受講した回数が、二日もしくは数日それぞれ人数がどのくらいなのか。それから、八王子市のパワーアップ研修だけではなく、東京都の教員研修センターの研修、他県の研修など、方々に行っているはずなのです。そうしたものも含め、八王子としては、独自にパワーアップ研修は、やらなければならないくて、研修をするとこれだけの成果があるのだという報告をしていただきたいです。

図れない部分があるのだけれども、そこが肝心なところでしょう。どこまでできるのかわからないけれども、検証の姿勢を示した報告をいただきたい。そのように思います。

○和田委員　八王子のパワーアップ研修が、いろいろなところで評判になっていて、やり方にしても内容にしても、先生方が、この夏休みを利用して勉強する非常に良い機会だという評価を受けているのです。

ですから、例えばこの表に人数を入れるだけでも違って来るし、委員長がお話になったように、幾分かの成果が見える形をお願いしたいと思います。

講座内容が①から④まであるのですが、この研修の中身と実施内容に報告されている講座内容と一致しないのです。例えば施策推進課題研修は、どこを見ればそれが出てくるのでしょうか。この報告の一覧表の中には出てきていません。

講座内容と書いているのだから、その講座内容として報告、説明をできるような資料にしておかないといけないと思います。報告内容とこの内容が違っているのが、まず1点です。

また、講座の受講が半日2時間以上となっていますが、3時間ではなく2時間にしている理由は何ですか。通常は半日というと、9時から12時となるわけですが、なぜ、2時間に限定しているのか。通常、大学の授業でも、午前中の授業は1時間半を対象として2コマで3時間なのです。先生方の研修として2時間は、内容的に物足りない感じがしますし、校内研修の域を超えないと思いますので、実際には2時間以上しているの

かもしれないのだけれども、やはり3時間以上を基準として打ち出してもいいのではないかと考えているのですが、それがなぜ2時間なのか、説明をしていただけるとありがたいと思います。

それから、もう1点、お聞きしたいのは、このパワーアップ研修と小中学校で設置している教科の研究部会がありますが、この2つは、どのような関係になっているのか。教えていただきたい。

○山本統括指導主事　まず、施策推進課題研修につきましては、本市で設定しています授業研究委員会が主催しているものが、それに該当しますので、授業研究委員会と示されているものが、それに当たるようになります。

今後、表にも、そういった記述をできるか考えていきたいとは思っています。

それから、研修時間につきましては、これまでずっと2時間で実施をしてきました。講座によっては2時間を超えるものもありますが、大概の学校が2時間で実施しているのが現状です。学校に担当できる講師謝金等の兼ね合いもありますので、その辺も整理をしていきたいと思っています。

あと、パワーアップ研修と小中学校の教育研究会との関係ですが、現在は指導課と小中学校の教育研究会との連携は図られていません。一部、連携して実施したものもありますが、やはり教科の研修を充実させていくためには研究会と連携して、どういうことがニーズになっているのかを把握して実施していくことが必要と思っています。

研修の内容は少し学校とも連携しながら考えていきたいと思っておりますので今後その連携を築いていけたらと考えています。

○和田委員　発言の趣旨は御理解いただいたと思いますので、改善の方向で進めていただきたいと思うのですが、やはり報告ですので、例えば先ほど指摘したように、分類の仕方をきちんとしていくのと、それぞれの成果を上げていくことが必要になってくると思うのです。

教科専門などは内容的にはわかるわけですが、例えば学校の企画、提案の研修は、具体的にどのようなテーマでどんな研修をしているのかというのを、一覧表を渡されて見るより、具体的にこのようなことをしていますという、研修内容で整理をしてみると、各学校の抱えている課題がもう少し見えてくるのではないかと思います。施策推進課題研修なども、これだけでは中身が見えないですから、そういう意味から考えると、中身についても触れて、整理をされるといいのではと思います。

それから、2時間が3時間になり謝金が増えてしまうということですが、3時間を単位にすればよいではありませんか。やはり夏休みで時間のあるときに研修をするわけだから、通常できない内容をやるべきなのです。夏休み中にやる意味や、内容を深めることから考えると、2時間ではなく3時間単位を一つのベースにしていくべきではないかと思っているのです。

特に、実技研修なども入っているようですが、これは2時間ではとてもできないわけで、そうしたことを考えると、単位はやはり3時間でいいのではないかと思っていますので、ぜひ、工夫、改善していただくとともに、成果が見えるようにしていただきたいと思えます。

○川上委員 和田委員のおっしゃったことと同じことを思っていました。それともう一つ、今、成果が見える形でおっしゃったのですが、成果はどのようにあらわれているのですか。

○小田原委員長 パワーアップが、どう図られたかということですか。

○川上委員 教員の資質の向上というのでしょうか。人間性が高まる、成長していくなどの結果は、誰が見て、どこで結果がわかるのでしょうか。

○山本統括指導主事 なかなか難しいとは思っていますが、教科の指導力を磨いていくという先生方の意思を育むことができることが、一つの研修の成果につながってくるのではないかと思っています。

ですから、学ぶ意欲を高める形で研修を実施し、研修した部分について学校にも伝えて、先生方の授業に取り組む姿勢などを把握していただければと思っています。

○小田原委員長 それでは、答えになっていない。

○川上委員 もちろん研修が終わった後、すぐに結果として現れるとは思えませんが、指導課企画のものに関しては、実施結果など他から教えていただいたりします。当人からはアンケートなどをとっているのではないかと思うのですが、このように改善できたというような報告などはないのですか。

○山本統括指導主事 研修実施後にアンケートはとっています。それから、学校企画につきましても、学校から内容等について報告は受けていますが、その後の検証の部分については、実施していないのが現実です。

○川上委員 アンケートなどは実施しても、その結果が、どこにも表れないまま、書棚や机の中に入ってしまうことがあります。

ですから、実際にどのようなになったかという部分が大事であり、そこからようやく、その先に続けられるのではないかと思うのです。

それから研修を受けた後は実践の場に生かすことが、まず一番大事なのではないかと思えますのでよろしくお願いします。

○小田原委員長　今のお話でいくと、目的がはっきり示されているわけだから、それをどのようにして、成果がどう図られるのかという質問に対しては、明確に答えられなければいけないわけです。教員の職務の中心となる授業力を高め、日常の職務に生かすことが目的ならば、日常の職務に生かされたかという結果を検証することを怠っているわけです。

東京都の研修センターが発足したときには、研修があれば当然アンケートなどを行うわけですが、そこから1カ月、3カ月と経過したとき、その成果がどのように生かされているかを、学校長から報告を求めるというのがあり、それを今、行っているのかは、わかりませんが、そのようなことが必要だということは、以前、申し上げたことがあるのですが、依然として行われたいということなのです。

そもそも、このパワーアップ研修の始まりは、ゆとり教育で土曜が週休日になり、夏季休業期間中、先生方の週休振替の夏休みがなくなり、勤務日になった。それを、どのように使うかが、この研修の一つの趣旨でもあったのです。

研修をやるからにはどうするかと検討し、パワーアップ研修という今の形ができて、和田委員の話のように評価される一つの形態を、八王子は先導的に進めてきているのだけれども、それが、先に進んでいないというのが現状だということなのです。

ともかく、良い形を進めているのですから、さらに八王子の研修がどのように展開されていくかということは、よく検討し、今のいろいろな御意見を参考にして、進めていただきたいと思えます。

○金山委員　質問ですが、この学校企画の提案研修の一覧は、校長会等で共有されているものなのですか。

○山本統括指導主事　こちらは、学校に全てお送りしておりますので、把握されていると考えています。

○金山委員　では、どの学校がどのような研修を行っているかは、把握しているということですね。

○山本統括指導主事　はい。

○金山委員　それから、資料に目を通したところでは「ああ、これはすごく力が入っているな」という研修もありますから、実際に拝見してみたいと思いますので、来年は企画研修の一覧ができた段階で示していただけると、時間の許す範囲で見学させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○小田原委員長　これは、どなたでも参加できる話を聞いたことがあります。予め、この計画表が渡されているものですから、それを私立学校の先生方に見せたらぜひ参加したいと話していました。いい形のものだという話も聞いています。

その他、いかがですか。よろしいですか。

○和田委員　1点だけ、余談ですが、各学校の企画の中で救急救命などを、この時期に入れているのです。その学校を見ると、この夏休みにやるべきことなのかという内容もあるわけで、通常できることをわざわざ夏休みに行っている。一般に公開されていて、他の先生方も校長先生もご覧になっているわけですが、何で夏季休暇中に、授業力を高めようという大きな目標のもとで企画している内容に、救急救命を入れているのかということについて、少し学校の姿勢を疑うのです。

授業、教科の指導力を高めようという目的なら、それに向けて企画をすべきなのです。何かお茶を濁したような研修をしていると、せっかくの機会や、研修が、もったいない気がします。

そのような企画が出てきたときに、指導課でも、指摘をしてもらいたいと思います。

○相原指導担当部長　和田委員がおっしゃったとおり授業力の向上ということが主目的で、今年、教科の研修を指導課としても立ち上げて、300人ほどの参加がありましたが、校長会でもう一度、授業力の向上を主眼に置いていくということを打ち出して、教科の授業は大事だとわかっていただきたい。

私どもも6月の早い段階で各学校の計画を見ていく中でも、随分精査してきたところですが、幾つか、委員がおっしゃったようなところが残っているところがあります。ここはまた徹底して指導をしていきたいと思います。

○小田原委員長　普段は救命救急を受講する暇がないから夏季休暇中に行っているということではありませんか。

他にいかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　特にないようでございますので、パワーアップ研修の報告については以上

ということにいたします。



○小田原委員長 続いて、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果等についてを、同じく指導課からお願いします。

○山本統括指導主事 それでは、平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果等について御説明をさせていただきます。

8月27日に、4月24日に実施されました調査の結果が届きましたので、本日は、設問の正答率から見た本市の傾向等について、報告をさせていただきたいと思っています。

○野村指導課指導主事 それでは、御説明いたします。資料をご覧ください。

まず、調査概要についてです。全国学力・学習状況調査につきましては、平成21年度は全数調査でした。平成22年度は抽出校調査で、平成23年度は東日本大震災のために中止となっております。そして、平成24年度は抽出校調査、今年度は平成21年度以来の全数調査となっております。

それでは、資料1ページの調査の目的、対象、調査事項及び手法、調査日時、実施学校数及び受検者数につきましては、ここでは説明を省略させていただきます。

続いて2ページをご覧ください。

Ⅱ、教科に関する調査の結果です。

1、正答の状況を平均正答率で示してあります。小学校は国語A、国語B、算数A、算数B、ともに全国平均を下回っております。中学校では、国語Aが全国平均と同じで、それ以外は全て全国平均を上回っている結果となっております。

続きまして、3ページから6ページまでのグラフについてですが、こちらは正答数分布をあらわしています。横軸が正答数で、縦軸は割合になっています。3ページの、小学校の国語Aを御覧ください。小学校の国語Aは、全国平均より3.5ポイント、都の平均より5.6ポイント低い結果となっております。そのため、本市の正答数を表している棒グラフの山の形が、全国や都の正答数を表している折れ線グラフより、やはり左側に寄っている結果となっております。

では、続きまして、7ページから10ページまでの、3、分類・区分別集計結果について、御説明させていただきます。

小学校では、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、それぞれの分類・区分ご

とに見ましても、全国平均より下回っているものが多いことがわかります。

10ページの(7)をご覧ください。中学校の数学Aですが、こちらは、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、それぞれの分類・区分で全国平均を上回っております。このように中学校では、全国平均を上回っているものが多いという結果になっております。

それでは、11ページを御覧ください。平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、指導改善の方向性について御説明させていただきます。

まず、小学校の国語についてですが、特に課題が見られるものとして、「言語についての知識・理解・技能」「読む能力」「書く能力」の定着状況を見る設問が挙げられます。指導改善の方向といたしましては、文の定義の理解を確実に図り、表現や理解する場面において、言葉の使い方を検討、吟味させたりする指導の充実を図る必要があります。また、文章の書き方や、表現の目的や意図の理解を図り、さまざまな場面で表現させる指導を継続し、日常生活で活用できるようにさせる必要がございます。

小学校の算数では、特に課題が見られるものとして、「数量や図形についての技能」や「数学的な考え方」の定着状況を見る設問が挙げられます。指導改善の方向として、さまざまな量について、日常生活と関連づけ、具体的な量の感覚を養う指導を行う必要があります。また、与えられた情報を整理、選択し、筋道をたてて考え、それを説明する学習活動の充実を図っていく必要がございます。

次に、中学校の国語についてですが、特に課題が見られますものとしては、「言語についての知識・理解・技能」「書く能力」の定着状況を見る設問でございました。指導改善の方向といたしまして、下の学年で修得しておくべき基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るための指導充実の必要があります。また、文章を書く目的や、相手意識を明確にして記述することや文章の構成、論理の展開を考えて表現したり、推敲したりするなどの指導充実を図っていく必要がございます。

数学は、「数量や図形などについての知識・理解」「数学的な見方や考え方」の定着状況を見る設問に課題が見られました。指導改善の方向といたしまして、立式するために必要な数量に着目させたり、関数の意味や作図の意味を理解させたりする指導の充実を図っていく必要がございます。また、事象を数学的に解釈し、説明し、確かめさせる指導を継続的に行っていく必要がございます。

最後に、八王子市教育委員会の学力向上に関する今後の取り組みについてですが、校

長会、副校長会等において、分析結果及び本市の課題を継続的に伝達し、授業改善及び指導法の改善を図るよう指導してまいります。

また、次年度の教育課程届出の際に、学力向上のための具体的な取り組みを明記させた資料を作成させるようにいたしまして、組織的に取り組むよう、今後、指導・助言してまいります。

指導課訪問や校内研修の際に、学力に関する調査の結果を分析した資料を学校に提示し、より具体的な指導・助言を行っていきます。それから、先ほど報告いたしましたパワーアップ研修等の各研修会や教科の研修会を充実させて、教員の授業力向上を図ってまいりたいと思っております。

これらの取り組みを通じて、今後も全ての児童・生徒の学力の定着と向上に努めてまいりたいと思っております。

私からの説明は、以上でございます。

○小田原委員長 指導課からの説明は終わりました。

本件につきまして、御質疑、御意見、ございましたら、どうぞ。

○金山委員 説明ありがとうございました。

学力テストの結果を見ますと、やはり小学校の結果のところ、ためいきが出るという状況なのですが、これを受けての改善の方向性で、できなかったところをできるようにしようという指摘はあるものの、なぜ、その学校の中で、それができなかったのかという、そもそもの原因に関する言及がないと思うのです。

原因が解明できなければ、改善方法はいつも同じパターンになっているので、なぜできなかったところを各学校で考えていただき、それを、指導課で把握する作業が、とても大事なのではないのでしょうか。

というのは、「2 今後に向けて」のところ、指導課訪問や校内研修は全校であるわけではありませんよね。ですから、特に結果の悪かったところで、原因の追究をしないと、毎回同じことの繰り返しになるのではないかというのが、私の印象なのですが。

○山本統括指導主事 御指摘のように、学校間で差が出ていることが現実としてありますので「2 今後に向けて」に示させていただきましたが、やはりこれから都の調査の結果、それから12月には市の調査の結果も出てきますので、いろいろな学年での課題が見えてくるかと思っています。

そして、何ができなかったのかということ、学校には焦点化させて、それを克服さ

せるためにはどんな取り組みを実施していくのかということを考える仕組みは、指導課としてもつくっていきたいと思っています。

○金山委員 多分、そのようなことは毎回なさっていると思うのです。指導課としては、一番大きな原因は、例えば先生の指導力の無さにあるのか、教材に問題があるのかなど、そのあたりは、どのように捉えていらっしゃるでしょうか。

○山本統括指導主事 やはり、学力の定着という面では、指導力もですが、家庭学習の部分も重要になってくるのではないかと考えています。

まだ、質問紙調査の分析については、これから実施していく予定ですので、生徒の結果からこのような指導が必要ではないかと提案をさせていただきますけれども、やはり学校でできる指導のあり方については、このことを伝えるためには、どういう場面でのようにしていくのかと、具体的に投げかける形で考えてもらうことが大事だと思っています。

ですので、より具体的な資料を今回は作成してもらうことを考えております。

○小田原委員長 誰に作ってもらうのですか。

○山本統括指導主事 学校です。

○小田原委員長 学校ですか。

○金山委員 学校が自覚を持っていただかないといけないのですが、こちらの指導として、来年度の教育課程の届出の際だと遅いと思うのです。今からできることをやる姿勢がないと、学力テストはその結果を踏まえて何をすることが調査の目的なので、行った意味がないと思います。

それと、何が原因かという部分で、学校の中の先生たちの指導力や、学校の中の体制に関しては、よくわかりませんが、気になることは、やはり小学校がこれだけ悪い結果ということ。そして、今、八王子市で実施している小中一貫教育は、何の意味を持ってやっているのかとすごく思うのです。

小中一貫のやり方は、教科、領域など、いろいろあると思うのですが、ただ、これだけ、もう何年もしているのに、ようやく中学校の先生は、小学校がこのようなやり方をしているのだとわかり、逆に小学校の先生も、中学校に行ったらこうなるというのが若干わかりかけてきたのが、多分正直なところだろうと思うのです。

先ほどの夏休みのパワーアップ研修を見させていただいても、小中一貫教育を使ってやっているところは、一体型のところだけです。そうではなく、小学校の先生にもっと

自覚を持ってやっていただくためには、中学に送り出した子どもたちが入学してからどうなるのかという話を、よく見ていただかなければいけない。その交流をきちんとしていただかなければいけないので、学力を考えれば、例えばこれから3年間は小中一貫教育を学力に関して教科でやってくださいというような指導をしてもいいぐらいだと思います。ただ、いろいろな面でいい結果が出ている学校もあるので、一概には言えないのかもしれないのですが。

小学校の先生たちは、生徒たちが中学校に入学してから先、どのような状況になるのか、よくわかっていないのが本音だと思うのです。小学校でやるべきことは、もちろん基礎的なことをやらなければならないのですが、同時に勉強の習慣をつけなければいけない。中学校に入った段階では、受験も考えなくてははいけない。その場合、どのように試験勉強をするかを教えなければいけないと思うのです。その積み重ねが小学校の間にはない学校が多いと思います。

ただ、そういう意味で指導のやり方などを、ある程度そろえていただく。中学校に入ったらこういう形で試験勉強をさせるので前段階としてこれをやってほしいといった情報を流していただくのはすごく大事だと思います。

それから、学校行事に関してもそうなのですが、体育大会とか保護者会をずらすのも、当たり前だと思うのですが、それにプラスして、校外学習もそうです。小学校のときに行った場所と同じ所だとテンションが下がると思うし、みんなで何かをつくり出すという意欲を削ぐものだと思うのです。

そういう場合の配慮がなされていないところが結構あると思います。その小中一貫の使い方が、一つ私が学力に関して思ったところなのです。

それから、もう1点は、今おっしゃったように、家庭学習の不足があります。これも、やはり小学校のときにしておかないと、中学校に入ってからでは遅いのですから、そういう意味で小学校の保護者の方に危機感を持っていただく。例えば、小学校で、保護者に丸つけをしてもらい、それを先生が見る、音読、九九を保護者に聞いてもらったあとにサインもしてもらい、担任に提出するのが、すごく減っているという話があります。それは、保護者が忙しくなっている現実があると思いますし、地域によってはやりにくいというところもあるかもしれませんが、やはり保護者にもっと訴えかけて、保護者の支援がないと、そういうことができないということを学校から発信していただく。その危機感を小学校の先生方に持っていただかななくてははいけない。個々の先生が持たないと、

校長先生が言っただけではだめだと思います、というのが2点目です。

それから、もう一つは、子どもたちの家庭学習をする時間が少なくなっている原因が、テレビも含めて、携帯、スマートフォン、ゲームだと思うのです。そのあたりも、家庭の問題になりますが、それではいけないのです。どのように家庭がコントロールするかを、青少年対策協議会などでもやっていただいていますので、そういうところと連携して、全体を見ないと学力は上がらないのではないかというのが、今回の感想です。

○山本統括指導主事　ありがとうございます。小中一貫教育について触れていただきましたけれども、八王子市では小中一貫教育を推進していく上で、学力や生活指導について、どのような方針でどう育てていくのかを、方向性として持たせていくことは大事だと考えます。

ですので、今後、小中一貫教育を実施する上では、そのような視点でも指導をしていきたいとは思っています。

それから、やはり学校の指導を充実させることも大事だと思いますが、家庭での情報発信、実際に具体的な取り組みをしていただくことも大事だと感じていますので、こちらも、学校と八王子教育委員会のほうでも、考えていきたいと思っています。

小学校6年生の段階では、学習時間が一時間未満という児童数が、東京都や全国よりも大きい割合になっているので学習時間は、やはり少ないのだと思います。

逆に中学校では、一時間未満という生徒数が、東京都、全国よりも少ない割合になっていますから、多く勉強していると思われます。

一方では、テレビなど他の時間について、小学校では全国や東京都よりも、やはり少し長い時間を見ている現実もありますので、その部分の情報発信もして、時間の有効利用について考えてもらう取り組みを考えていきたいとは思っています。

○山下統括指導主事　小中一貫教育については御指摘のとおり、本市においても取り組みにかなり差があります。スタートの時点では、「小学校では力がついていない。何をしているのだ」と指摘を受けるところからスタートしている学校もあります。

実際、取り組みを見てみますと、全国的な傾向と同じですが、やはり学習指導の連携が先になっている部分があります。これは、共通の課題認識があり、それについてお互いにスタンダードを決めてやろうという学校が、かなり出てきています。これに対して、学習指導のスタンダードについては、まだ全体の数%ということで、こちらも非常に注目しておりまして、そういったことを各学校に、こんな取り組みをしていますというお

示しをしているところです。

御指摘のあった一貫教育では学力向上を一番に掲げていますので、このような調査結果をうまく利用しながら、さらに取り組みを進めていきたいと考えています。

○金山委員 ありがとうございます。

ぜひ「2 今後に向けて」のところに、そのような取り組みも入れていただきたいと思います。

それと、いつも全国との比較を話していますが、ぜひ東京都の比較をしていただきたいと思います。

東京都の会合でP T Aの関係で出席することがありますが、そこでの都内の自治体間の格差がとても気になるので会合に出席している部分もありますから、都の中で比較して、せめて都のレベルと同等になっていただきたいと思います。

○小田原委員長 金山委員から、かなり具体的な指摘が3点ありましたが、それに対して山本統括指導主事の答えは、また元に戻り一般的な話になっているわけです。金山委員がそこまで言うのですから、もっと学校にしてもらうのではなく、指導課、八王子の教育委員会としてどのようにするかが、もっと具体的に示されなければいけません。

東京都、国、八王子、この三つの学力調査を行って、そのたびに同じようなことが言われているけれども、具体的に、「では、どうするのか」、学校に投げかけるだけではなくて、八王子市教育委員会としてどのように考えなければいけないかを、ただ、このように並べるのではなく、具体的に考えていかなければいけません。

それから、そのパワーアップ研修のような場でといいます。去年の反省を生かして、パワーアップ研修にどういうものが組まれているかと思えば、そうしたものはみあたらない。教科なら数学、算数、国語でどう教えるのかという辺も考えなければいけないわけでしょう。

例えば、数の概念や、10の位をどう教えるのかという話のときに、ブロックやテープ、お金など、いろいろな教え方があって、教員は斯く各々それぞれのやり方で教えていて、教科書によっても違いはあるけれど、算数の先生によれば、お金で教えるのが概念として一番、生徒にわからせやすいという話があるのだけれども、どちらがわかり易いかという研究は実際に行われていませんよね。そういう研究や研修を具体的にやらせるのだと。数学的な考え方というのは、どういうところで身につけさせていくのかを考えて、それを具体的に学校に伝える形を考えていかなければいけないと思うのです。

それを言葉でごまかしたり、その場をやり過ごすのではなくて、具体的に考えていてほしいと思います。今のやりとりを聞いていて、そこは強く感じました。

その他、いかがですか。

○川上委員 先ほど、金山委員は、小学校の結果が低くて「ため息が出ます」と表現しました。その後の山下統括指導主事の話の中には「何をやっているのだ」という言葉も出てきました。やはり、そこの違いだと思います。そう思ってしまったら、心がかたくなってしまいます。

それと、受け取り方です。自分の心をどうするかで、その先が広がるし、深まってもいくし、高まってもいくのではないかと思います。一番大事なのは、子どもたち一人ひとりの顔を見ながら、どうしてわからないのかを考え、その方法論も一緒に考えていくことなのではないかということです。

「個を大切に」それから、「個性を大切に」と、言葉では言いながら、なかなか実践されていない結果だと、私は思いました。もちろん、家庭の環境もあると思いますし、それはできる限りのことをしていかなければいけませんし、八王子でここに私たちがあられる限り、こうあってほしいというものの実現に向けて、みんな一つの方向を向いていたらいいのではないかと思います。

○和田委員 やはり、平均点で語ると、どうしても比較をしてしまうし、どこも一生懸命頑張っているわけなので、平均点で言うのは、なかなか厳しいと思うのです。特に児童生徒数の多い地区は、平均点が下がりやすい傾向があるので、努力はもちろんしていただくのですが、この改善を図っていくのはなかなか厳しいと思うのです。

逆に言うと、小学校でこれだけ課題のある成績が、中学校になると正解数が増えてくるといえるのは、何故だろうと思いますよね。やはりどこかできちんと指導をしていく体制がとられているからこそ、中学校である程度の正解が出てくる、平均点を超える成果が出てくるという評価面も考えてあげなければいけないと思っています。

ただ、毎回思うのは、例えば小学校6年生の国語などの問題のところを見てもそうなのですが、10問中、1問も解けない子どもの気持ちは、非常に辛いものがあると思います。ですから、1問、2問しか解けない子どもたちには、一斉指導の段階というよりも、やはり個別指導をきっちりやって何とかこの問題を解かせてあげようという学校の姿勢が出てこなければいけないと思っていますので、その子供たちがいる学校については、指導助言を、是非していただきたいし、個別指導について丁寧

に行っていただきたいと思います。

6年生のこの段階で、一問も解けないというのは、相当基礎学力にしても、いろいろな課題についても十分ではないということです。それから、別の視点から言うと、塾にも通っていないのなら、学校が唯一学力を高める救いの場でもあり、手を差し伸べる場でもあると思うので、全体での指導とあわせて、学力が思うように進んでいない子どもについての丁寧な指導を、ぜひお願いしたいと思っています。

こういう点数が出ると、全国の中でできない子に分類されてしまうのが、絶対評価の厳しさで、絶対評価の怖さや、外との比較の怖さは、自分を追い詰めてしまったり、これからの展望を持たない挫折感を味わってしまったりするのです。ぜひ、その辺のフォローもしていただきたいと思っています。

○坂倉教育長 資料だけでは見えないのですが、やはり先ほどのお話にも全部関係するのですけれども、いつも言っている適正規模の関係なのですが、少人数学級などは入れているのですけれども、本当に1学級で、しかもその数が少なかったら、少人数の分けようもないですし、教員の資質と言われても、切磋琢磨し難いとなると、今後もう少し適正規模も考えていかないと、小規模校の限界みたいなものは、感じています。

○小田原委員長 さきほどのパワーアップ研修の報告でも金山委員の質問に対して、小規模校は体力がなくて、パワーアップ研修の企画すらできないという話が出てきたのは、非常に気になりました。

だから、そのような学校が少なからず八王子にはあるわけだから、それに対してどのようにするかというのは、考えなければいけません。現に、適正規模を考えなければいけないと言うけれども、何年かかるかわからない話だから、どうするかということです。

○坂倉教育長 少人数教育については学力だけではなく、いわゆる精神面、生活も含めて、いい面の切磋琢磨、協同性も含めて、その辺のところをやっていくためには、指導課も、正しい情報を流していく形をしていかないと。とにかく少人数がいいと思われていますから。

○小田原委員長 そういう点では、データはきちんと整理する必要があるのでしょうか。

それから、16問あって16問解いている子もいれば、0問、1問しか解けない、その辺もむしろ多いわけですから、そういう子どもたちを放っておくわけにいかないのです。どのようにして1問でも2問でも多く解けるようにしていくか、そこは具体的に考えてやらなければいけない。

○坂倉教育長　そこに関しては、一部の校長先生は逆に言い訳にしています。通級の生徒も試験を受けているので、その部分が下がるし、正解0間のパーセントが多いわけです。中学校の数学BとかはがあるからBだということになってしまうので、その辺のところをどうするか。

○小田原委員長　さきほどの平均点の話にもありましたが、センター試験がありますよね。センター試験で国語の選択科目は、現代文、古典、古文、漢文があり、漢文は選択しなくていい大学が結構あるわけです。そうすると、センター試験で国語として受験するのだけれども、漢文は選択しないとすると、その受験した子は手つかずなのだから漢文は0点ですよ。

この場合、選択しなくても良いというのだから0点で、答えないから0点なのですが、逆に答えようとしても0点で終わってしまうという子どものことを考えなければいけないわけです。そういうところを見ていくためには、学校の規模の問題、教員数の問題もあるだろうということです。

ということで、よろしいですか。

それでは、次に「中核市先行自治体視察報告について」を、お願いいたします。

○山本統括指導主事　それでは、「中核市先行自治体視察について」を報告をさせていただきます。

平成27年度の本市中核市移行に伴い、先行で中核市となりました群馬県高崎市教育委員会へ、主に権限が移譲される教員研修について、視察をしてみました。

視察に行った日には、平成25年8月13日。高崎市を視察先に選定した理由は、平成23年4月に中核市になり、まだ間もないということで、当時の状況が把握できるのではないかと考えて決めました。

視察をさせていただいて、群馬県と高崎市、県と市の教員研修の関連について、理解をすることができました。高崎市は、中核市になる以前は、市独自の研修は法定研修を含めて、ほとんど実施をしておらず、県で実施する研修に、先生方が参加するという形になっておりました。しかし、中核市移行により、研修の権限が移譲されたことに伴い研修担当部署を作り、市の研修体系と、内容等について組み立ててきたということです。研修担当の指導主事9名を配置し、法定研修等を含めて、実際に研修をしているということでした。

市ではやはり補えない部分の研修もありますが、例えば、高等学校の研修や、管理職

の研修、新任校長や副校長の研修、約50講座ぐらいにつきましては、県と協定を結んで、教員が受講できるようにしております。

高崎市は、その市独自の研修を行うために、研修検討委員会を学校の代表と教育委員会事務局の構成で設置し、人材育成という視点で、教員の資質能力を高めるよう、講座や内容を検討してきました。そういう形で、現在、実施をしているということです。

八王子市では、既に東京都から委託を受けて、いわゆる法定研修である初任者研修や、10年経験者研修を実施してきており現在170余りの講座を実施しております。量的な部分については、既に中核市になっている市と比較しても、同等のものを実施しており引けをとらないと感じてまいりました。

ただ、やはり教員研修の充実をさせるということで、教員の資質能力を高めていくということは、必要なことだと考えております。今後、八王子市がめざす教員像というのを明らかにし、その研修を充実させるにはどうしたらいいかという場を設定し、研修の体系、それから内容等を考えていくことが必要であると感じました。

以上、報告とさせていただきます。

○小田原委員長 指導課の報告は終わりました。

本件につきまして、御質疑、御意見、ございましたらどうぞ。

○坂倉教育長 全体的にあまり参考にならない報告だったと思いますが、参考になったのは質問8に対する回答で、指導主事が県2名、市12名で合計14名は多いと思いました。

それと、研修は中核市に移るが、研修後補充については県が負担するということで八王子市もこのような感じになるとわかった程度です。

○小田原委員長 研修については、我々としては、もう少しきちんと考えなければいけません。

他に何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 特にないようでございますので、指導課の報告は以上ということでよろしいですか。

続けて、生涯学習スポーツ部及び図書館から御報告願います。

○宮木生涯学習政策課長 それでは、夏季に開催されました行事等の実施結果について、口頭で各担当者から報告いたします。

○串田生涯学習政策課主査 それでは、8月22日に実施いたしました、第4回八王子市長

杯こども将棋大会について、御報告いたします。

会場は、生涯学習センター5階ホール及び展示室で行いました。

大会は、日本将棋連盟の協力のもと、小学1・2年生、3・4年生、5・6年生、中学生の4部門に分け、予選及び決勝トーナメントを実施いたしました。

当日は116名の小中学生が参加し、白熱した対局が行われました。

また、開会式では、八王子の観光大使でもありますプロ棋士の羽生善治氏が参加したビデオレターを上映いたしました。

惜しくも敗退してしまった児童・生徒も自由対局コーナーやプロ棋士などによる指導対局コーナーに積極的に参加していましたので、大会以外でも将棋に親しみ、楽しんでいただくことができました。

生涯学習政策課からは以上となります。

○福島川口図書館長 八王子市図書館では、この夏、図書館に興味を持っていただき、同時に子どもたちの創作意欲を高め、実感をしていただくために、「おはなし工作会」及び「夏休み手づくりの絵本をつくろう」という二つの事業を実施いたしました。この事業につきまして、中央図書館主査、市原のほうから御説明をさせていただきます。

○市原中央図書館主査 それでは今年度、夏休み期間中に実施いたしました「おはなし工作会」及び「夏休み手づくりの絵本をつくろう」について、御報告いたします。

初めに、「おはなし工作会」につきましては、8月21日（水）の午後、中央図書館の視聴覚ホールで実施いたしました。今回は、広報はちおうじ、図書館ホームページ、図書館報、ポスター、チラシで参加者を募集しましたところ、小学生を中心に30名の募集のところ、34名の参加となりました。

当日は、八王子図書館ボランティアの会の方にも御協力をいただき、工作の見本とした絵本「たこは空を飛ぶ」などの読み聞かせや、紙芝居を行った後、図書館の使用済レシートの芯を使ったりサイクル工作を行いました。こちらは、図書館にある資料を参考にして、割り箸につけた輪ゴムを動力として、飾りつけた芯を飛ばす仕組みになっております。

それぞれの子どもたちが趣向を凝らし、カラフルでいろいろな形の楽しい作品ができました。作ったものが実際にうまく飛ぶと、うれしそうな顔をしていた子どもが多かったのが印象的でした。

多くの子どもたちが、家でもう1個作るという、材料を持って帰ったことから、

参加した子どもたちの創作意欲を向上することができたとともに、図書館に来ればこのようなことができる、また、他の工作についても、図書館の資料を参考にしてみようということで、図書館に来るきっかけづくりにつながる行事となったのではないかと思います。

また、通常のお話し会だけでは、小学校高学年の参加はほとんどありませんが、今回のように工作と一緒にすることで、高学年にも読み聞かせが体験できる、よい機会となったのではないかと感じております。

次に「夏休み手づくりの絵本をつくろう」は、小学生を対象とし、八王子手づくり絵本の会の方の協力を得て、7月26日（金）と8月23日（金）、それぞれ午前・午後の計4回、中央図書館の視聴覚ホールで実施いたしました。

こちら、広報はちおうじ、図書館ホームページ、図書館報、ポスター、チラシで募集し、定員を少しオーバーしましたが、応募者全員を受け入れ、合計で119名の参加となりました。

こちらは、表紙の色などを選び、リボンで閉じる本を作った後、それぞれが思い思いにページを埋めていきました。あらかじめ考えてきた絵や文を書いたり、写真を張ったり、その場にあるシールや切り抜きを選んで貼ったりと、それぞれ世界に一つしかない本ができました。

アンケートでは、「絵本を自分で作ることが面白かった」「次はもっと長い本を作りたい」という意見も多く寄せられ、また参加したいかという質問には、9割以上の参加者から、「はい」という回答をしており、非常に満足した参加者が多かったのではと感じるところでございます。

既成の本ではなく、自分でつくるという体験から、ますます本に親しみ、本を大切にする気持ちと共に、絵本への関心や興味を持つ機会を提供できたのではないかと思います。

2月には、同様の行事として、手づくりの本展を開催予定でございます。今回参加した子どもたちには、作品を出品していただくよう、今後調整するとともに、その作品を多くの市民に見ていただけるよう計画をする予定であります。

以上で図書館からの報告を終わります。

○田島文化財課長　それでは、文化財課から、夏休みに実施いたしました行事の報告をさせていただきます。報告は、木住野主査から報告させていただきます。

○木住野文化財課主査　それでは、文化財課で夏季に開催されました行事等の実施結果について、報告させていただきます。

平成25年7月19日から9月1日まで、コーナー展「日中戦争～青年教員の出征～」を開催いたしました。郷土資料館では、八王子市が、太平洋戦争末期に空襲により甚大な被害を受けた市として、毎年八王子空襲の日である8月2日をはさんだ夏休み期間に、戦争空襲関係の展示を企画、実施しております。

これまで、八王子空襲や太平洋戦争記を多く取り扱ってまいりましたが、本年は太平洋戦争突入の一因ともなった日中戦争を取り上げ計3,181名に来館していただきました。

次に、平成25年7月19日から現在開催中ですが、コーナー展「タイムトラベル江戸時代の八王子を行く」について、申し上げます。

これは、夏季休業中の自由研究の課題で来館する小中学生を対象に、江戸時代の八王子宿の様子や、当時の賑わいについて、わかり易い展示を心掛け、実施しております。

次に、平成25年8月16日、17日の2日間で、講座「八王子空襲と戦時下の生活」を開催いたしました。戦後70年近く経ち、戦争を体験していない世代が半数以上を占め、身近な人から戦争体験を聞く機会も少なくなってきました。

本講座では、戦争体験の語りを聞き、軍服、慰問袋、防空頭巾など、実物の資料に触れることで、戦争への反省と平和の大切さを後世に伝えていく機会と位置づけ、実施いたしました。

内容は、ガイド講師及び郷土資料館ガイドボランティアによる体験談の語りと、郷土資料館ガイドボランティアによる紙芝居「八王子空襲」の上演です。参加者につきましては、空襲を体験された世代から小学生まで、幅広い年齢層の方々がいらっしゃいました。初日の講演会が、参加者42名、紙芝居実演会22名、二日目のガイドボランティアによる体験談の語りは25名、紙芝居は22名の参加者となっております。

最後になりますが、平成25年8月20日に、講座「八王子かるたでいっしょに遊ぼう！」を開催いたしました。会場はクリエイトホールの9階和室で開催いたしました。

これは、八王子の歴史産業、文化財や史跡の名称等を読んだ八王子かるたで遊びながら、郷土愛の育成を図るとともに、故郷の歴史等を学習する目的で実施いたしました。内容は、八王子郷土資料館ガイドボランティアが、かるたを読みながら八王子の歴史や魅力を話すというもので、対象は、ひらがなの読める幼児から小学生で、参加者数は2

8名となりました。

○田島文化財課長　　続きまして、八王子城跡の発掘状況及び見学会、「子ども手作り甲冑教室」の内容について、御報告をさせていただきます。

まず、「子ども手作り甲冑教室」ですが、7月14日、8月10日、8月11日の計3回で「子ども手作り甲冑教室」を行いました。

甲冑作りを子どもに体験してもらい、歴史に興味を持っていただくことを目的に企画をしたところでございます。

参加者につきましては、応募30名に対し、27名参加いただきました。甲冑づくりの内容は、兜と胴周り、「くさずり」と言いまして大腿に当てる部分の3点を作りました。

全ての参加者が、三日間で作り終わり、それを身に着けて最後に記念撮影をいたしました。参加した方にアンケートをとりましたところ、今後は、背中や肩の部分のパーツも作成してみたいという回答もありました。親御さんの中には、親も一緒になって大人用を作りたいという方もいらっしゃいましたので、大人向けの企画も今後検討していきたいと考えております。

続いて、8月10日に、現在20年ぶりに発掘しております八王子城跡の発掘現場における見学会を実施し参加者は、合計で245名の方にお越しいただきました。事前に、読売新聞及び朝日新聞に掲載されたこともありまして、もう少し多くの方にお越しただけるかと思ったのですが、この日は、この夏一番の猛暑日になると報道された影響もあって、午前中は約200名、午後は50名程度といった状況でございました。

まだ現実に発掘は進めております。実は、池跡が発見され、池跡の耕作面と落城したときの落城面、あるいは池跡だとすれば取水口、排水口、そうしたものが、どのような形で耕作されてきたのかを正確に見極めたほうがいいということで、期間を若干延長して発掘を続けております。

委員長にはご覧いただきまして、本当にありがとうございました。他の委員の皆様におかれましては、ぜひ一度、ご覧いただきたいと思っております。

八王子城跡の遺構が、専門家の中でも高評価をいただいているところもありますので、このようなものを含めて、今後八王子の歴史をきちんと子どもたちに伝えていく授業も検討していきたいと思っておりますので、御指導いただければと考えております。

○小田原委員長　　各担当のほうからの御報告がありましたけれども、御質問、御意見、ござ

いませんか。

○坂倉教育長　今、紹介した多くの事業は、テレメディアで、その翌日から一週間ぐらい放送していますし、参加したお子さんのコメントなども撮っています。非常にいい企画ですし、市民の方にも好印象を与えられたのではないかと考えております。

○小田原委員長　子どもたちが具体的な作業をしていくというのが、非常にいいですね。もっとやりたいという子どもが増えているのもいいですね。

○坂倉教育長　甲冑教室を体験した子どもたちは、段ボールのような物に、紐を使って甲冑と繋げていくのが、大変だったみたいですね。

○小田原委員長　池の跡も、埋めてしまうのがもったいない感じがしますね。

○田島文化財課長　そうですね。かなり遺構の残存状態が良いので、小田原市や、岐阜市の発掘担当者も視察に来ましたが、その2市よりもはるかに八王子城跡のほうが、遺構の残存具合が良いということでした。

一昨日、専門家の方に来ていただいて、残っている石が、池を耕作したときにあった石なのか、それとも400年の長い間に山から落ちてきたのか、もしくは壊されたのか、そういった部分の石になっているのかというのを、確認をしておきましたので、そういうのも含めて、どのような形でこれを残していったら良いか、市民の方、来訪者の方に見せるようにしていくのが良いのかということは、今後検討していきたいと考えています。

○小田原委員長　ということですが、他になにかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　特にないようでございますので、御報告は以上ということで。お疲れさまでした。

他に何か報告する事項等ございますか。

○野村学校教育部長　3件ございます。

まずは、教職員課から市立中学校教員の結核発病に関する報告をさせていただきます。

○廣瀬教職員課長　それでは、市立中学校教員の肺結核発病による生徒等への対応につきまして、御報告申し上げます。

当該の教員でございますが、本年度8月16日の教職員の健康診断の結果、胸部の精密検査が必要となり8月29日、結核専門医療機関において肺結核と診断され、そのまま入院となりました。

当該の学校において、9月6日（金）、7日（土）に、事実公表と今後の対応について保護者説明会を実施いたしました。学校からは、学校長と養護教諭、保健所からは保健所長、感染症対策担当医師、保健師が、八王子市教育委員会からは保健給食課長と、教職員課長が説明員として出席いたしました。

保護者の出席は、金曜日、土曜日、両日で214名でございました。説明会では、校長からの謝罪があり、教員の発病に至る経緯等の話の後、保健所長から、結核についての話がございました。

結核は、毎年、全国で約2万人、都では3,000人、八王子市でも100人程度が発病している疾患ですが、感染しても発病するケースは10人に1人程度であり、適切に接触者検診を行いまして、病気の早期発見に努めることの大切さの説明があり、出席された保護者の方々には、おおむね御理解いただいたと思っております。

また、3年生の保護者からは、修学旅行や受験への影響につきまして質問があり、1・2年生の保護者からも子どもに感染していた場合の、日ごろの学校生活や医療面での対応について、御心配する質問がございました。これに対し学校からは、学習面はもちろん、心の面でのフォローについても、八王子市教育委員会と力をあわせて対応させていただく旨の回答をいたしました。また、保健所長からは、感染は学校生活に制限はなく、服薬しながら修学旅行にも参加できるとの回答がありました。

また、この保護者会とは別に、八王子市教育委員会としては、9月9日（月）、臨時校長会を開催いたしました。教育長、学校教育部長、保健所長が出席し、その中で、保健所長からは、今回の病気の再発防止のために、正しい結核の知識を持ってもらうための講話があり、教育長、学校教育部長からは、校長として、いかに職員の健康管理を徹底しなければいけないかという意識の再啓発がございました。

次に、先ほどの接触者検診についてですが、9月19日、24日、25日、26日、27日、30日の6日間で、八王子市保健所において実施することになりました。保健所までの移動は、6日間とも八王子市教育委員会が用意したマイクロバスで行うこととしました。なお、接触者検診の費用は無料で、保護者負担はございません。

今回、教壇に立つ教員が結核に罹患し、健康管理が徹底できなかったことに対して、非常に残念に考えております。今後は組織改正を行った中で、教職員の健康管理も含めた安全体制の確立に向け、対応していかなければならないと考えております。

報告は以上です。

○小田原委員長 教職員課長からの御説明は終わりました。

何か、ございませんか。

○金山委員 油断してはいけませんが、検診はまだで、疑わしい症状をお持ちの生徒はいるのでしょうか。

○廣瀬教職員課長 特に疑わしいことはありませんが、私が聞いている中では、もし、心配があれば、随時学校を通して保健所に連絡をとるということで、子ども2人が連絡したと保護者から聞きました。ただ、学校で咳込みが酷いといった症状ではないので、今のところ、発病や感染には至っていないと聞いております。

また、それ以外にもPTAの方個々に、どうしたらいいのだという問い合わせがありましたので、それは個々に保健所のほうで対応していただいております。

○小田原委員長 ということでございますが。他に何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、ないようでございますので、教職員課からの報告は以上ということで、続いてお願いします。

○野村学校教育部長 指導課から、夏季休暇中における事故報告です。

○山下統括指導主事 夏季休業中における児童・生徒の事故の状況について、御報告いたします。

この夏季休業中に大きな事件等の報告は、入っておりません。また、水の事故等の報告はありません。

交通事故につきましては、小学校で2件、中学校で3件、計5件の報告がございました。うち、骨折が2件でその他は軽症ですが、この5件のうち4件は、児童・生徒が自転車に乗車中の事故ということです。これまでも自転車の事故について、各学校で注意喚起をしてきたところですが改めて今回の件を各学校に周知をいたしまして、自転車の安全な乗り方等について、指導をしております。

報告は以上でございます。

○小田原委員長 ということで、何か御質問、御意見ございませんか。

これまでに、自転車の事故の報告は定例会の中でありましたか。

○山下統括指導主事 この場では報告をしておりません。夏季休業中は特に水難事故等の心配がございましたので、まとめて御報告をしたということでございます。

○小田原委員長 ということで何かございますか。

○坂倉教育長 セーフティ教室なども実施しているのですが、1人で走っているときは走行に問題がなくても、何人かで一緒に走行しているときに、中学生などは、少々乱暴な走りになったりするのです。

○小田原委員長 今回もそういうケースですか。

○坂倉教育長 それはわかりませんが、そんな感じはします。

○山下統括指導主事 今回足を骨折した件ですと、中学生が坂道で、転倒したものと自転車を停車したところで、後ろから自転車に追突されたというものでしたので、必ずしも自転車の走行が乱暴だったということだけではなく、自転車のスピードが出ていたことも原因としてあったということでございます。

○小田原委員長 その自転車の保険の話が、今、あちこちで進んでいますが、八王子市の実態はどうなっていますか。

学校では、特に入っていないのですか。

○相原指導担当部長 学校として、入っているのは聞いていません。

○小田原委員長 個々に任せているということですか。

○相原指導担当部長 はい。

○小田原委員長 そうですか。

例えば春日部市などは、教育委員会が市として加入しているということはあるのだけれども、八王子市の教育委員会では、まだ全然考えていませんか。

○野村学校教育部長 入っていないです。学校で加入したというのは、聞いていないです。

○相原指導担当部長 恩方中学校は、自転車で子どもたちが通学しますが、特に学校で一律に保険に入っているとは、聞いていないです。

○小田原委員長 ということでございます。

それでは、よろしいですか。続いて報告願います。

○野村学校教育部長 続いて教育総務課から報告いたします。

○小田原委員長 では、教育総務課から報告願います。

○小林教育総務課長 それでは、第3回八王子市多摩ニュータウン地域運営学校協議会について、御案内いたします。

9月21日（土）、上柚木中学校図書室におきまして、第3回八王子市多摩ニュータウン地域運営学校協議会が開催されます。多摩ニュータウン地域の11校が、自主的に協議会を設立し、今年で3回目になるもので、当日には、ニュータウンの諸課題につい

て基調報告のあと、ニュータウンにおける地域運営学校の役割について、熟議を行う予定となっております。

当日は、教育長、学校教育部長、教育総務課長が参加予定となっております。

報告は以上です。

○小田原委員長 教育総務課の報告は以上ですが何かございませんか。

○金山委員 当日は私も参加させていただきます。

このような協議会をつくる意味では、良い面、悪い面、あるかもしれませんが「協議会をつくるとこんなことができるのだよ」という例になると思いますので、ある意味、楽しみに来ていただいたら良いと思います。

○小田原委員長 行政区域を超えた、こういう多摩ニュータウン地域というのができるのかというのが、不思議な感じもするのですが、これは、自然に集まって作られたと考えてよろしいのですか。

○小林教育総務課長 はい。多摩ニュータウン地域は、八王子市内の他の地域とも若干地域性が異なり、なかなか地域ができにくく、コミュニティもできにくい地域でございます。学校への協力についても、昔ながらの地域とは、若干、違うところがございますので、そういう諸課題を共有するというところで、この11校が集まり情報共有等を行っているところでございます。

○金山委員 ニュータウンという同じ特性があるので、共通認識が取りやすいということや、比較的早くに小中でコミュニティスクールが立ち上がったことも原因の一つだと思います。

○小田原委員長 ということですが、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、予定された報告は以上ですが、他に何かございますか。

○野村学校教育部長 ございません。

○小田原委員長 委員の皆さんで、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 それでは、以上で公開での審議は終わりますけれども、川上委員が、9月30日をもちまして任期満了となりますので、定例会への出席は、今回が最後となります。皆さんの前でお話する機会も、今回が最後となろうかと思っておりますので、この場をお借りして、川上委員から御挨拶をいただきたいと思っております。

では、川上委員、どうぞ。

○川上委員 8年、いろいろありがとうございました。

この8年間、いろいろなことを勉強させていただいて、このような立場、組織というものの難しさが、よくわかりました。今までは、大学の教育の現場に長いことおりました、一人ひとりを個別に指導することが多かったのですが、公立の小学校、中学校ということで、言葉として、「個を大切に」などと言いながら、なかなかそうではない実態が見えてきました。

教育現場では、先生方は本当に一生懸命やってくださっていて、すてきな先生に多くお会いできました。たまに、少し心が固くなっている先生もいらっしゃいましたけれども、先生たちと一緒に、八王子市民も、それから小学校、中学校も皆さんが一つになって輝いているといいますか、そのようなところを目指して、一緒に勉強して行くのではないかと思います。

言葉では、生涯学習や学校教育などと言いますが、みんな同じことだと思っています。その中で一番大切なのは、熟議の中で委員長もおっしゃった「本物」。それから、その本物を見つけるために「本気」で「本音」でというところなのではないかと思います。

それから、八王子が日本の中でも、世界の中でも、明るく力のあるところであるように、その繁栄を願うところですが、一番大事なことは何なのかというと、やはり明るさですかしらね。

言葉で表すと少し違うかもしれませんが、正しさ、美しさというところなのではないかと思っています。

どうぞ皆様、ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、これから中核市を目指すということになっています八王子のさらなる発展を、お祈り申し上げます。

長い間、ありがとうございました。

○小田原委員長 川上委員、どうもありがとうございました。

では、委員の皆さんから、川上委員に送る言葉をいただきたいと思います。

○和田委員 8年間本当にお疲れさまでした。

私も途中から御一緒させていただきまして、いつも感じていることは、川上委員の発言は、教育について、先ほどあったように生涯学習や、学校教育なども幅広く捉えながら、根本的なところから基本的なところのお話をいただいたと思っています。

あわせて、子ども一人ひとりを大切にすることや、家庭教育と学校教育や生涯学習を

どうつなげていくかという御発言がたくさんありまして、私どもも、そういう角度の違う視点をいただいたと思っております。

今後とも、ぜひ八王子の教育委員会の様子も見ていただきながら、こういう機会でのお話をする機会はないですけれども、ぜひ、いろいろなところから御指摘をいただければと思います。

どうもありがとうございました。

○金山委員 本当に長い間、ありがとうございました。

私は、目先の細かいことに目が行くのですが、川上委員とお会いして、そうではないのだと。もっと根本的な部分、例えば人間として、それはどうなのか、あるいは子どもを育てる、教育という立場でどうなのかということを知り、私も視点を変えることを、覚えられた気がします。

たくさんのお話を教えていただきまして、今は2年間しか御一緒できなかったことが、とても残念だと思っております。

これからも、個人的におつき合いをお願いしたいと思います。

本当にありがとうございました。

○坂倉教育長 私は部長職で4年、教育長として1年半の御指導を受けた形になっております。

和田・金山両委員のお話とも似てくるのですが、本当に川上委員は原点一直線でございますので、正直、部長のときは、「そこから来ますか」という感じで多少堪えました。ただ、自分が教育長という立場になり、やはり「根本が大事」という意味では、本当に私も勉強させていただきましたので、少しでも、まねをしていきたいと思っています。

私、個人的というよりも、今後ともぜひ、八王子の教育のために、何らかの機会があったらお手伝いをお願いしたいと思っていますので、その節は、ぜひお願いいたします。

○小田原委員長 それでは、私から。

二期目の任期が終わりに近づいて、引き続き川上委員が三期に入ると思っていたところ、そうではないという話で、非常に残念に思っているところでございます。

今、3人の委員の皆さんからお話がありましたように、川上委員からは、非常にいろいろなことを学ばせていただきました。一番大きいのは、学校教育というのは生涯学習の一部なのだという、私の考えは、川上委員から教えていただいたところが非常に大きいです。

それから、新採用教員について、私は非常に厳しいことをお話ししてきたところもあ

ったのですが、川上委員は新人の力の大きさ、あるいは発想の豊かさといえますか、信頼に足るものがあるというところも目を開かせていただいたところがあります。

教育委員会以外にでも、貧困の連鎖を断ち切る研究会や、あるいは新採用教員の育成というところで、川上委員には力を貸していただきましたけれども、金山委員から話がありましたように、これからも八王子の学びと暮らしの安心、安全、発展のために、力を貸していただき、尽くしていただきたいと思っております。

今のお話に「明るさ」というところを伺ったのですが、先ほど冒頭でオリンピックの話をしていただきましたが、プレゼンテーションの中で非常に明るい笑みをもってプレゼンテーションをされた、ある選手の笑顔が非常に大きかったという話を伺っております。川上委員のお話を聞いて、あの笑みが浮かんでくるわけですが、非常に心温まるものがありまして、川上委員のお話も、厳しい中にも、人を信頼する、それから明るさを求めていく希望を捨てないところを、強く印象づけられたと思いますので、私どもも、引き続きそれを生かして、引き継いでいきたいと思っております。

どうぞ、これからもお元気で御活躍いただきたいと思っております。

それではここで、川上委員のこれまでの御貢献に対しまして、感謝の気持ちを込めまして、花束を贈呈いたしたいと思っております。

○川上委員 皆様、ありがとうございました。

○小田原委員長 もっと川上委員のお話を伺いたいところではございますけれども、ここで暫時休憩といたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退出願います。

[午前11時43分休憩]